

# The 21st Clinical Pharmacy Symposium in Kanazawa

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/35540">http://hdl.handle.net/2297/35540</a>

## 『学会開催報告』

医療薬学フォーラム2013／第21回  
クリニカルファーマシーシンポジウム

The 21st Clinical Pharmacy Symposium in Kanazawa

金沢大学附属病院薬剤部  
医学系研究科医薬情報統御学分野  
宮本謙一

さる2013年7月20日(土)、21日(日)の両日、石川県立音楽堂とANAクラウンプラザホテル金沢を会場に、医療薬学フォーラム2013/第21回クリニカルファーマシーシンポジウムを開催いたしました。医療薬学フォーラムは、今日の医療、中でも医薬品開発、薬物療法、薬学教育、薬剤師職能をめぐる諸問題を深く掘り下げ、討論した成果をそれぞれの現場にフィードバックさせることにより日本の医療の発展に寄与するものです。今回は、『薬の専門家としての薬剤師の立ち位置を考える』をメインテーマとし、特別講演1題、教育講演1題と13のシンポジウム、1ワークショップとポスターによる一般演題発表が行われました。

特別講演では、アメリカ薬剤師会次期会長のMatthew C. Osterhaus先生を招聘し、「Pharmacists, Now and in the Future」と題して、米国のヘルスケアシステムとファーマシューティカルケアの現状・課題と今後の展望について講演がなされました。

教育講演では、文部科学省高等教育局医学教育課課長の村田善則氏から「薬剤師教育をめぐる諸課題」と題して、薬学部の現状、薬学系人材養成の在り方に関する検討会とフォローアップ、薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂および医学・歯学・看護教育の改善・充実等について、幅広い内容の講演が行われました。

以下にシンポジウムとワークショップの概略を報告致します。学会ホームページ (<http://web.apollon.nta.co.jp/cps2013/>) も併せてご参照いただければ幸いです。

S-1 アメリカのClinical Pharmacistと日本の臨床薬剤師：米国のクリニカルファーマシストの実践、共同薬物治療管理(CDIM)の事例を踏まえ、これからの臨床薬剤師業務に向けた薬剤師の立ち位置について議論された。

S-2 TDMにおける薬剤師の立ち位置とは：平成22年の医政局長通知(医療スタッフ協働・連携によるチーム医療の推進について)、平成24年度の診療報酬改定などを踏まえ、今後のTDMにおける薬剤師の立ち位置について、中小病院と大学病院の薬剤師と検査技師、医師(移植医)等のシンポジストとフロアーとの間で活発に議論された。

S-3 薬剤師外来：医薬連携の実践～薬剤師から始める共同薬物治療管理～：薬剤師が発端となった外来患者への共同薬物治療管理の実践と成果として、糖尿病、がん化学療法、緩和医療、抗凝固療法などの領域で各施設の特色ある取り組みが紹介された。

S-4 医療協働と医療薬学・薬剤師が果たすべき役割：これからの医療において医療薬学と薬剤師が果たすべき役割について、行政、患者、学会、大学教員、病院薬剤師および薬局薬剤師、それぞれの立場の関係者による意見発表と総合討論が行われた。

S-5 医薬品をより安全で有効に使用するために～臨床試験における薬剤師の立ち位置～：EBMの構築のための臨床試験をサポート・企画・運営・実施する上での薬剤師の立ち位置と、それを担う薬剤師教育について議論された。

S-6 薬剤師業務の充実のための後方支援体制のあり方：急激に拡大する薬剤師業務の理念とその拡充のための後方支援の在り方について議論された。

S-7 今、薬剤師に求められているNSTでの活躍：平成24年度のNST加算算定条件の緩和を踏まえ、栄養療法における病棟活動と地域連携について議論された。

S-8 当事者が語る「医療薬学教育は、社会のニーズに応えられる様になったか?」：薬学教育6年制導入後7年が経過し第2期生が輩出されたことを踏まえ、第1期卒業生と受け入れ側の病院薬剤部、薬局、行政、製薬企業、医薬品審査機構を中心に議論が行われた。

S-9 在宅医療における共同薬物治療管理の推進～薬業連携、医薬連携の現状と課題～：超高齢社会を迎えた病院・薬局・在宅医療における連携の現状と課題、共同薬物治療管理の観点を踏まえた将来展望が示された。

S-10 「チーム医療実践事業」にみる薬剤師の立ち位置：厚生労働省医政局の平成23年度チーム医療実証事業の実践例報告をもとに、チーム医療における薬剤師の将来像について議論された。

S-11 コア・カリ改訂～薬学教育改革と現場薬剤師の変革～：10年後の薬剤師を目指したコア・カリ改訂作業を踏まえて、これからの薬学教育・薬剤師教育と現場薬剤師の指導者育成教育の在り方について議論された。

S-12 開局薬剤師の将来像 これからの「薬剤師」の話をしよう：薬局薬剤師が社会から期待される資質と薬局で全人的医療をどのように実現すべきかについて議論された。

S-13 専門薬剤師としての立ち位置～専門性のさらなる飛躍に向けて～：がん、感染症および精神科の専門薬剤師を取り上げ、業務の在り方とこれからの飛躍への方策について医師を交えた議論が行われた。

WS-1 PN→EN→在宅までを考えてみよう!!!：前日のシンポジウムに引き続き、「輸液から経腸(経口摂取)栄養さらには在宅」を目標にチーム医療に関するワークショップ形式で体験的知識が共有された。

また、一般演題として、321題のポスター発表がなされ、金沢駅地下のもとなしドームを会場に熱く活発な議論がなされました。そのなかで特に優れた5つの演題が選ばれ優秀ポスター賞として表彰されました。

最後になりましたが、本フォーラムの開催に際してご支援いただきました金沢大学十全医学会の諸先生方に感謝申し上げます。

